

## 死への恐怖と時間の形而上学

佐々木渉(Wataru SASAKI)

大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程

---

死と時間の哲学的な関連性は古くから指摘されてきた。近年の分析形而上学においても、両者の関係はしばしば話題にのぼる。Le Poidevin(1996)は、私たちが時間の A 理論と B 理論のどちらを信じるのかによって、私たちの死への恐怖が変わりうると主張した。とりわけ、死への恐怖が自己の完全な消滅への恐怖であるとすれば、すべての時間が平等に実在すると主張する B 理論を信じることは、死後もその人が生きた過去は変わらず実在することを意味するため、死への恐怖を軽減する理由になると論じた。これに対し Burley(2008)は、たとえ B 論者であっても、A 信念を持つことが可能であるという Mellor-MacBeath の議論から、B 論者であっても死への恐怖を感じることは合理的であると反論した。また Yehezkel(2014)は、そもそも私たちが過去の出来事と未来の出来事に対して非対称な態度をとることと A-B 理論間の論争とは関係がなく、こうした議論は A-B 理論の論争からは正当化されないと主張している。一方、Deng(2015)は Burley の反論が概ね成功していることを認めた上で、Le Poidevin の主張はあくまで、時間の B 理論をそう解釈することで死への恐怖を軽減できる点にあるのだとして Le Poidevin を擁護している。

本発表では死への恐怖と時間の形而上学の関係を考察するための足がかりとして、まず上述の論争がうまく成立しているのかを検証する。さらに、この議論を参考にしながら、死への恐怖と、時間や持続の形而上学における特定の理論へのコミットメントは関連を持ちうるのかどうか、持つとすればそれぞれの理論に応じて私たちの考えはどのように変わりうるのかについて、近年の時間や死の形而上学の議論を元に展望する。また死への恐怖にいくつか種類が考えられるという Warren(2004)の主張を参照し、新たな議論を提起したい。

Burley, M. (2008) "Should a B-Theoretic Atheist Fear Death?" *Ratio* 21 (3):260-272.

Deng, N. (2015) "On Whether B-Theoretic Atheists Should Fear Death." *Philosophia* 43 (4):1011-1021.

Le Poidevin, R. (1996) *Arguing for Atheism: An Introduction to the Philosophy of Religion*. Routledge.

Warren, J. (2004) *Facing Death: Epicurus and His Critics*. Clarendon Press.

Yehezkel, G. (2014) "Theories of Time and the Asymmetry in Human Attitudes." *Ratio* 27 (1):68-83.